

令和6年度

農薬管理指導士認定試験問題

(注意事項)

- 1 問題は全部で30問（11ページ）あります。
- 2 問題は全て択一式となっています。選択肢の中から正解と思うものを一つ選び、その番号を黒の鉛筆又はシャープペンシルで別紙の解答用紙に、はっきりと記入してください。
- 3 正解が二つ以上ある問題はありません。1問につき二つ以上の番号を解答用紙に記入したときには、その問題については不正解となります。
- 4 解答を訂正するときには、いったん記入した番号を消しゴムできれいに消し、上からはっきりと番号を記入するようにしてください。消し方が不十分なときには不正解となります。
- 5 試験問題の中で文字の不鮮明なところがあったときやページが欠落しているときには、静かに手を上げて係員に申し出てください。それ以外、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
- 6 解答用紙と試験問題は別々になっていますので、解答用紙のみを提出してください。試験問題は持ち帰ることができます。

問題1 神奈川県農薬管理指導士に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 神奈川県農薬管理指導士は、農薬取締法に基づく調査権限がある。
- 2 神奈川県農薬管理指導士は、自ら率先して範を示すことにより、適正な防除業務の推進にあたる。
- 3 神奈川県農薬管理指導士は、農薬取締法に基づく国の認定制度である。
- 4 神奈川県農薬管理指導士は、一度認定を受ければ更新の必要はない。

問題2 農薬管理指導士等に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 多くの都道府県が「農薬管理指導士」の名称を用いている一方で、「農薬管理員」、「農薬指導士」、「農薬管理士」等を用いているところがある。
- 2 農薬管理指導士等は、農薬使用に伴う人畜に対する危被害防止及び環境の保全について、他の農薬販売者、生産者、ゴルフ場の農薬使用者などに指導・助言を行う。
- 3 農薬管理指導士等は、事故例が多いことなどから特に注意を必要とする農薬の安全使用について、他の農薬販売者、生産者、ゴルフ場の農薬使用者などに指導・助言を行う。
- 4 農薬管理指導士等は、毒物又は劇物に指定された農薬の適正な取り扱い及び安全使用については、他の農薬販売者、生産者、ゴルフ場の農薬使用者などに指導・助言を行う必要はない。

問題3 「神奈川県農薬安全使用指導指針」に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 散布に使用した器具及び容器を洗浄した水は、河川等に流さず、適正に処理する。
- 2 常温でガス化しやすいクロルピクリン剤は、処理後は必ずポリエチレンフィルム等で被覆する。
- 3 農薬が近接作物に飛散しても、速やかに分解されるため、問題が生じることはなく、特に飛散防止措置を講じる必要はない。
- 4 蜜蜂の危害防止のため、養蜂農家等から照会があった場合には、農薬使用に係る情報の提供に努める。

問題4 植物防疫に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 施設栽培の面積拡大など栽培方法も多様となる中、病虫害の発生環境が変化し、病虫害の発生様相が複雑多様化してきている。
- 2 普及指導員は、防除のために必要な侵入調査事業、発生予察事業その他防除に関する事務を行うため、設置されている。
- 3 植物防疫は、自然環境の保全を図りつつ我が国農業を健全に発展させ、需要動向に即して安全な農作物を安定的、効率的に生産するために重要である。
- 4 植物防疫情報総合ネットワーク（JPP-NET）は、発生予察調査情報の迅速な収集と、現場における技術指導や農薬などの防除資材の適正使用をより効率的に推進するために運用されている。

問題5 病虫害発生予察情報の種類に関する記述のうち、[]にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

[ア] は、重要な病虫害が大発生することが予想され、すぐにも防除する必要が認められる場合に発表される。

[イ] は、新規の病虫害が発見されたり、あるいは、重要な病虫害の発生状況が例年と異なるなど特異的な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど生産現場への影響が懸念される場合に発表される。

[ウ] は、病虫害の発生に関する情報を定期的に発表するもので、病虫害防除所から月1回程度発表される。

	[ア]	[イ]	[ウ]
1	注意報	特殊報	都道府県の発生予報
2	警報	注意報	特殊報
3	注意報	警報	特殊報
4	警報	特殊報	都道府県の発生予報

問題6 植物防疫に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 病害虫が発生しにくい生産条件の整備及びより迅速・精緻な病害虫の発生予測の活用など、「予防」と「予察」に重点を置いた総合的病害虫管理（総合防除）の実践を幅広い農業者に促していくことが必要とされている。
- 2 病害虫防除にあたっては、病害虫の耐性、抵抗性の発達を抑えるため同一作用機構の薬剤を連用することが基本である。
- 3 植物検疫は、海外からの病害虫の侵入及び国内でのまん延を阻止し、農林産物を病害虫の脅威から守るために、法律に基づいて実施されている。
- 4 世界で初めて植物検疫を実施したのはドイツで、「ブドウ害虫予防令」を定めて繁殖用ブドウ苗の輸入を禁止した。

問題7 農薬取締法第一条に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

この法律は、農薬について〔ア〕の制度を設け、〔イ〕の規制等を行うことにより、農薬の安全性その他の品質及びその安全かつ適正な使用の確保を図り、もって農業生産の安定と国民の健康の保護に資するとともに、国民の〔ウ〕に寄与することを目的とする。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	残留基準	販売及び使用	生活環境の保全
2	残留基準	製造及び販売	食糧の安定供給
3	登録	販売及び使用	生活環境の保全
4	登録	製造及び販売	食糧の安定供給

問題8 次の記述のうち、農薬取締法で定義されている農薬として、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 衛生害虫としてのゴキブリ、蚊を防除する薬剤
- 2 防除以外で利用される天敵
- 3 農作物等が存在しない駐車場や線路等の雑草の防除に使用される薬剤
- 4 植物の背丈を抑制する薬剤

問題 9 農薬に関する主な法律の名称とその内容の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

	法律の名称	内容
1	消防法	廃棄物の適正な処理
2	食品衛生法	危険物の表示、保管、輸送規制
3	食品安全基本法	A D I 設定
4	労働安全衛生法	残留農薬基準値設定・告示・監視

問題 10 虚偽の宣伝等の禁止に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 製造者、輸入者又は販売者は、登録を受けていない農薬について当該登録を受けていると誤認させるような宣伝をしてはならない。
- 2 製造者又は輸入者は、その有効成分又は効果に関して誤解を生じるおそれのある名称を用いてはならない。
- 3 禁止している宣伝の方法は新聞に限る。
- 4 輸入代行業者など商品の紹介や推薦、その他取引の成立を補助するための行為を行う者を「農薬の輸入の媒介を行う者」として規制の対象をしている。

問題 11 農薬の販売者に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬の販売者は、新たに販売を開始する場合にあってはその開始の日までに、販売所の所在地を管轄する都道府県知事に届け出なければならない。
- 2 農薬取締法において、「販売者」とは、農薬を販売する者をいい、農薬を無償で授与するだけの者は規制の対象に含まれない。
- 3 農薬の販売者は、容器又は包装に農薬取締法の規定による表示のある農薬及び特定農薬以外の農薬を販売してはならない。
- 4 農薬の販売者は、農薬の種類別とその譲受数量及び譲渡数量（水質汚濁性農薬に該当する農薬については、その譲受数量及び譲渡先別譲渡数量）を記載した帳簿を備え付け、その帳簿を保存しなければならない。

問題 12 毒物又は劇物に該当する農薬を取り扱う者に関する次の記述のうち、毒物及び劇物取締法並びに関係法令の規定に照らし、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 劇物の容器及び被包に、「医薬用外」の文字及び赤地に白色をもって「劇物」の文字を表示しなければならない。
- 2 業務上、毒物又は劇物にあたる農薬だけを取り扱う者は、毒物又は劇物を廃棄する場合、毒物及び劇物取締法施行令で定める技術上の基準に従う必要はない。
- 3 業務上、毒物又は劇物にあたる農薬を取り扱う者は、毒物劇物営業者及び特定毒物研究者と同様に、その取扱いに係る毒物又は劇物が盗難にあい、又は紛失したときは、直ちに、その旨を警察署に届け出なければならない。
- 4 使い残しの毒物にあたる農薬を炭酸飲料の空容器に入れても、専用の保管庫に鍵をかけて保管するのであれば、不適切とはいえない。

問題 13 毒物又は劇物である農薬の譲渡手続及び交付に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を 20 歳未満の者に交付してはならない。
- 2 毒物劇物営業者は、その交付を受ける者の身分証明書の提示を受けずに全ての毒物又は劇物を交付することができる。
- 3 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物である農薬を、毒物劇物営業者以外の者に販売する際、当該農薬の販売に係る必要事項を記載した書面には、譲受人の押印が必要である。
- 4 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物にあたる農薬の譲渡手続に必要な書面を、販売又は授与した日から 3 年間保管しなければならない。

問題 14 次の文章は、毒物及び劇物取締法の条文の一部である。〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

第十四条 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を他の毒物劇物営業者に販売し、又は授与したときは、その都度、次に掲げる事項を書面に記載しておかなければならない。

- 一 毒物又は劇物の名称及び〔 ア 〕
- 二 販売又は授与の〔 イ 〕
- 三 譲受人の氏名、〔 ウ 〕及び住所（法人にあつては、その名称及び主たる事務所の所在地）

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕
1	数量	年月日	職業
2	数量	目的	年齢
3	成分名	年月日	職業
4	成分名	目的	年齢

問題 15 農薬の名称に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 商品名とは、農薬を商品として販売する場合の名前である。銘柄名ともいう。
- 2 種類名とは、農林水産省が農薬登録の際、命名するもので、原則として、その農薬に含まれる有効成分の一般名に剤型名を付して命名される。
- 3 一般名とは、化学名を簡略化した名前である。原則として、国際標準化機構（ISO）が推奨する国際的に標準化された ISO 一般名が翻訳又は字訳されている。
- 4 化学名とは、農薬の開発試験段階で用いられる名前で、コードネームなどとも呼ばれている。

問題 16 農薬の開発に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 近年は、化学合成農薬に偏り、天敵など生物農薬による作物保護技術の研究開発は行われていない。
- 2 農薬の取り扱いの安全性の面から、有機溶剤ベースのものから水ベースの製剤へ、粉状のものから粒や顆粒タイプの製剤に移行してきている。
- 3 スクリーニングを経て、最終的に新農薬として成功する確率は、現在は 1/16 万以下といわれている。
- 4 新農薬の創出までに要する時間と費用は膨大なもので、化学合成農薬を例にとると、1 剤を開発するのに必要とする経費は 200 億円～300 億円といわれる。

問題 17 農薬のリスクに関する次の記述のうち、[] にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

農薬は、その多くが生理活性を有する [ア] であり、その使用によって、防除対象とする病害虫や雑草以外の作物、ヒト及び環境に何らかの悪影響を及ぼす可能性がある。それらを概念的に理解するためには、農薬が作物に施用された [イ] からどのように拡散しどのような生物や環境と接点を有するのか（これを「 [ウ] 」という）、並びにそれぞれの [ウ] がどのような意味を持つのかを認識する必要がある。

	[ア]	[イ]	[ウ]
1	化合物	数日後	暴露
2	化合物	直後	有害性
3	化学物質	直後	暴露
4	化学物質	数日後	有害性

問題 18 許容一日摂取量 (ADI) の決め方に関する次の記述のうち、[] にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

ADI の設定の際には主に [ア] 毒性試験などで認められる毒性所見から、[イ] を求める。これらの値に、動物試験による結果であることとヒトにおいては個人差があることを考慮して、安全係数 (通常 [ウ]) を乗じヒトに影響のない量を求め、ADI として定められる。

	[ア]	[イ]	[ウ]
1	長期	半数の個体が死亡する量	1/10
2	長期	有害影響が認められない量	1/100
3	短期	半数の個体が死亡する量	1/100
4	短期	有害影響が認められない量	1/10

問題 19 食用農作物及び飼料用農作物に対して農薬を使用する場合の遵守に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 急な病虫害の発生に対しては、定められた使用時期 (収穫前日数等) を過ぎても農薬を使用することができる。
- 2 定められた使用時期 (収穫前日数等) までならば、定められた総使用回数を超えても使用できる。
- 3 ラベルに表示された最終有効年月を過ぎたものは、品質の保証ができないことなどから使用しないよう努める。
- 4 農薬の効果が不十分な場合は、ラベル表示の使用量より多く使用できる。

問題 20 農薬用マスクに関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 使い捨て式防じんマスクと取替え式防じんマスクとの性能に差はない。
- 2 農薬の容器等に「マスク着用」マークがある場合は、散布時に必ず農薬用マスク (防護マスク) を着用する。
- 3 農薬は、皮膚からの吸収よりも、呼吸時の吸い込みによる毒性が高い。
- 4 手ぬぐいやタオルでも、重ねれば農薬用マスクと同等の効果がある。

問題 21 農薬の空容器の処分に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 空容器の野焼きは禁止されている。
- 2 使用済み農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わない。
- 3 空容器の処分前には、残った農薬の除去を行うため、容器の種類に関係なく水で洗浄しなければならない。
- 4 農薬の空容器の処分にあたっては、産業廃棄物処理業者に委託するなど、基準に適合した処分を行う。

問題 22 周辺住民の安全確保に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 子供や通行人が近寄るおそれのある公園、街路樹等の防除では、見張り役を置いたり、立て札・立て看板等の表示を行う。
- 2 農薬散布にあたっては、周辺住民に対して、事前に、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類及び農薬使用者の連絡先を十分な時間的余裕をもって周知する。
- 3 公園・街路樹等で病害虫の防除が必要な場合は、病害虫の発生や被害の有無にかかわらず定期的に農薬を散布する。
- 4 住宅地やその周辺等で農薬を使用する場合は、粉剤等の飛散しやすい農薬は避け、できるだけ粒剤、微粒剤等の飛散が少ない剤型の農薬を使用する。

問題 23 農薬散布時の周辺作物への残留リスクに関する次の記述のうち、[] にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

- ・ 散布圃場に近いほど飛散を受ける確率や量は [ア] なり、残留リスクは高くなる。
- ・ 散布農薬の有効成分投下量が [イ] (成分含有率が高い、希釈倍率が低い、散布量が多い) 場合は、残留濃度が高くなりやすい。
- ・ 収穫まで [ウ] 時期に散布すると残留リスクが高くなる。

	[ア]	[イ]	[ウ]
1	小さく	多い	近い
2	小さく	少ない	期間がある
3	大きく	多い	近い
4	大きく	少ない	期間がある

問題 24 植物の病気の発生に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

植物は、そこに〔ア〕（主因）がいればいつでも必ず病気になるとは限らず、植物の素質（素因）と気象その他の環境条件（〔イ〕）が揃ってはじめて成立する。〔ア〕はある植物に遭遇したとき、その活動に適した環境条件が揃っていて、植物の持っている抵抗（防御反応）に打ち勝つ能力、すなわち〔ウ〕を備えているときにのみ病気を起こすことができる。素因とは、特定の病原体に対して植物が持っている病気に罹りやすい、あるいは罹りにくい〔エ〕のことである。病気の成立には、温湿度、雨、風などの気象条件や土壌の温湿度・pHなど環境条件が関与している。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕	〔エ〕
1	宿主	要因	特異性	経済的な性質
2	宿主	誘因	特異性	遺伝的な素質
3	病原体	原因	病原性	経済的な性質
4	病原体	誘因	病原性	遺伝的な素質

問題 25 植物病害の発生環境に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 湿度は、病原菌の孢子形成や侵入に影響する。また、病原細菌の侵入・増殖には水分が必要であり、高湿多雨は多くの細菌病の感染・発病を促進する。
- 土壤伝染性病害は、土壌の温度、湿度、pHなど土壌の理化学性に大きく影響される。一例をあげると、アブラナ科の根こぶ病は酸性土壌で発生が多い。
- 一般に、日照が多い条件下では植物は健康に育ち、病気に罹りにくいが、日照不足下では軟弱に育ち、病気に対する抵抗力が衰えるのが普通である。
- 病原体にはそれぞれの活動に適した温度域がない。また、温度は宿主の抵抗力にも影響しない。

問題 26 害虫の発育温度と休眠に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 冬の休眠の場合は1日の温度の変化が休眠を誘起する一番主要な要因である。
- 発生時期には年により若干の早晚があるが、害虫の防除時期の決定には影響を及ぼさない。
- 昆虫は恒温動物であり、その発育は湿度によって大きく左右される。
- 環境温度(普通の場合は平均気温)から発育最低温度を引いた値を発育有効温度という。

問題 27 殺虫剤抵抗性の発達に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

農薬が処理される前の害虫集団の中には、特定の殺虫剤に遺伝的な抵抗性を持つ個体が〔ア〕混在している。そのような集団に同じ殺虫剤を繰り返し使用すると抵抗性に関わる遺伝子を持った個体だけが〔イ〕する。このように殺虫剤抵抗性は、個々の個体が薬剤に〔ウ〕なるのではなく、同一薬剤の連用による淘汰の結果、集団における薬剤抵抗性を持つ個体の比率が高まり、薬剤が効果を示さなくなる現象である。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	ごくわずかに	死滅	強く
2	ごくわずかに	生き残り繁殖	強く
3	多数	死滅	弱く
4	多数	生き残り繁殖	弱く

問題 28 雑草名と雑草の分類の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

1	メヒシバ	—	畑一年生雑草
2	オモダカ	—	畑多年生雑草
3	スギナ	—	水田一年生雑草
4	タイヌビエ	—	水田多年生雑草

問題 29 雑草の発生生態に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

雑草は〔ア〕あるいは〔イ〕後、間もなく発生が始まる。〔ウ〕ぐらい経つとノビエ、メヒシバなどの雑草の成長速度が作物のそれを上回る。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	田植え	定植	1カ月
2	田植え	畑整地	3カ月
3	代かき	畑整地	1カ月
4	代かき	定植	3カ月

問題 30 除草剤に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

使用薬量は土壌条件などを考慮して使用幅が示されていることがある。除草剤の移動性が大きい〔ア〕土壌、あるいは〔イ〕が移植された場面では薬害の危険性があるので、使用幅の〔ウ〕に近い量にするなど対策をとる必要がある。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	砂質の多い	軟弱な苗	下限
2	砂質の少ない	強固な苗	下限
3	砂質の多い	強固な苗	上限
4	砂質の少ない	軟弱な苗	上限

令和6年度農薬管理指導士認定試験

正 答

受講番号	氏 名

問題	正答番号	問題	正答番号	問題	正答番号
1	2	1 1	2	2 1	3
2	4	1 2	3	2 2	3
3	3	1 3	3	2 3	3
4	2	1 4	1	2 4	4
5	4	1 5	4	2 5	4
6	2	1 6	1	2 6	4
7	3	1 7	3	2 7	2
8	4	1 8	2	2 8	1
9	3	1 9	3	2 9	3
1 0	3	2 0	4	3 0	1
				※	

※欄には何も記入しないこと。